第５学年道徳科学習指導案

日　時　令和○年○月○日（○）○校時
場　所　５年○組教室
授業者　○　○　○　○

１　主題名　広い心で　「Ｂ-(11)相互理解，寛容」

２　ねらいと教材

(1)　ねらい

相手の過ちなどに対しても謙虚な心，広い心で受け止めようとする道徳的心情を育てる。

(2)　教材名

「名医，順庵」（東京書籍　新しい道徳５）

３　主題設定の理由

(1)　ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は，小学校学習指導要領特別の教科道徳，内容項目 B－(11)「相互理解，寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」を受けている。

寛大な心を持って他人の過ちを許すことができるのは，自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり，自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。

高学年の段階においては，自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから，相手のものの見方，考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また，考えや意見の近い者同士が接近し，そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ，相手の意見を素直に聞き，なぜそのような考え方をするのかを，相手の立場に立って考える態度を育てることが必要である。

「広い心」で生活することで相手を理解し，思いやりを持って接することができるといった良さなどに気付かせ，よりよい人間関係を築いていけるようにしたいと考え，本主題を設定した。

(2)　児童のこれまでの学習状況や実態

本学級の児童は，困っている友達に対して優しく接するなど，相手の性格を理解して過ごしている。しかし，相手が過ちを犯してしまった時には，理由を聞かず，結果だけで判断してしまい，関係をこじらせてしまう様子も見られる。

児童は，中学年で「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見を大切にすること」について学んできている。本時の学習では，中学年での指導内容をさらに発展させ,「相手の過ちなどに対しても謙虚な心，広い心で受け止めること」まで考えさせたい。さらに，６学年の「銀のしょく台」の授業で扱う「広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」につなげていきたい。

(3) 使用する教材の特質

本教材は，医者である順庵が，弟子の一人である孝吉の過ちを一方的に叱責するのではなく，孝吉の心の内を静かに聞き，遠く離れた病床の母への思いを知って，過ちを受け止めるという話である。

ある日，孝吉の元に母からの手紙が届く。その手紙には，「重い病気にかかり，寝たきりになってしまった，どうか早く帰ってきて欲しい」と書かれていた。孝吉の頭の中は寝たきりで苦しんでいる母の姿や，その病気を治す薬のことでいっぱいになる。元気がない孝吉の様子に気付いた順庵は声を掛けるが，孝吉は母のことを話せずにいた。母を思う気持ちがいっぱいになり，眠れない夜が続く。ある夜，孝吉はとうとう順庵の薬部屋から母の病気を治すのによい高麗人参を持ち出してしまう。それを弟子の一人に見付かったことから騒ぎになり，孝吉は順庵にそれまでのことをありのままに話す。すると順庵は，「おまえの悩みや苦しみを分かってあげられなかった自分にも責任がある。薬を持って早くお母さんの元へ行ってあげなさい」と言う。翌朝，孝吉は薬を持って母の待つ家へ向けて旅立つという話である。

寛容な態度で弟子と接する順庵の姿から，謙虚で広い心を持って相手を受け止めることの良さを感じ取れる教材である。謙虚であることや人に対して寛容であることで相手を理解し，思いやりを持って接することができるといった良さに気付かせ，よりよい人間関係を築くことができるようにしたい。

(4) 指導観

本時の指導に当たっては，自分が順庵だったらどう対応するか，自分との関わりで考えさせたい。そこから，自分の考える対応と順庵のとった対応を比較させることを通して，寛容な態度で接することの良さに気付かせたい。寛容という言葉は，児童の実態から「広い心」として扱うこととする。

導入場面で，「広い心」を持つとはどのようなことか自分なりの考えを持ち，問題意識を持たせる。展開前段では，孝吉の母を思う気持ちに共感させた上で，自分が順庵だったらどのような対応を取るかを問い，自分が取った対応と順庵の取った対応を比較することを通して「広い心」を持つとはどのようなことか，深く考えさせる。展開後段で，教材から離れ，もう一度「広い心」を持つとはどのようなことかを問い，自分の身近な場面から考えさせる。

児童の学習状況を見取るために，板書の記録とワークシートを活用する。板書は，順庵が受け止めた理由と児童が導入で考えた「広い心」についての考えが対比できる板書構造にする。授業後に板書の写真を撮って振り返ることで，児童の考えを見取るとともに，教師自身が授業を振り返る際にも活用する。ワークシートについては，授業の始めに考えた「広い心」を持つとはどのようなことかについて，授業を通して「広い心」の捉え方の変容が分かるような形で構成する。

４　教材分析・発問構成　・・・　別紙

５　学習指導過程　・・・　別紙

６　他の教育活動との関連・・・別紙

（別紙）４　教材分析・発問構成

あらすじ	気付かせたい考え	発問	予想される反応
順庵の弟子である孝吉の元に母から一通の手紙が届き，母の病気のことを知り，心配になる。			
孝吉の元気がない様子に気付いた順庵は孝吉に声を掛けるが，孝吉は母のことを話せなかった。	母を心配する気持ちから高麗人参を持ち出してしまったこと（人間の弱さ）に気付かせる。	孝吉がいけないことと分かりつつも高麗人参を持ち出したのはどうしてでしょう。	・母の病気を治したいから。 ・母に元気になって欲しいから。 ・高麗人参は高くて買えないから。
ある夜，孝吉は，順庵の薬部屋から高麗人参を持ち出してしまうが，その様子を弟子の一人に見付かり騒ぎになる。	順庵の心には，弟子を思う気持ちと弟子の悩みに気付けなかった自分を反省する気持ちがあることに気付かせる。	自分が順庵だったら高麗人参を持ち出した孝吉に対し，どのような対応をすると思いますか。	・怒る。 ・許す。 ・許さない。 ・弟子として認めない。 ・話を聞いて判断する。
順庵は孝吉の心の内を聞いて，孝吉の気持ちを理解し，薬を持って母の元へ行くよう話す。		◎順庵は，どうして母の元に行くことを許したのでしょう。	・孝吉の母に対する思いが分かったから。 ・孝吉が悩んでいることに気付けなかった自分を反省したから。 ・医者として病人を助けるべきだから。
		順庵の持つ「広い心」とはどのようなことでしょう。	・相手の話をよく聞くこと。 ・すぐに判断をしないでじっくり考えること。 ・相手のことを理解して答えを出すこと。

（別紙）５　学習指導過程

	学習活動	○主な発問（◎中心的な発問） ●補助発問　・児童の反応	指導上の留意点
導 入 ５ 分	1　本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。（一斉） 2　課題をつかむ。（一斉） 「広い心」をもつとはどのようなことか考えよう。	○「広い心」を持つ人とは，どんな人でしょう。 ・失敗を許す人。 ・困っている人を助ける人。 ・優しい人。 ・すぐ怒らない人。 ○みんなは，「広い心」を持っていますか。	「広い心」について問うことで，本時で学ぶ道徳的価値について問題意識を持たせる。（問） 近くの児童と話し合う時間を設け，「広い心」についてのイメージを持たせ，自分と照らし合わせて考えさせる。（自）
展 開 前 段 25 分	3　教材の前半部分（Ｐ88～Ｐ89）の範読を聞き，高麗人参を持ち出してしまった孝吉の心情を考える。（一斉） 4　孝吉の取った行動について，自分だったらどのようにするか考える。（ペア→一斉）	○孝吉がいけないと分かりつつも高麗人参を持ち出したのはどうしてでしょう。 ・母の病気を治したいから。 ・母に元気になって欲しいから。 ・高麗人参は高くて買えないから。 ●あなたは，孝吉の気持ちが分かりますか。 ●理由があれば，高麗人参を持ち出しても良いのですか。 ○自分が順庵だったら，高麗人参を持ち出した孝吉に対し，どのような対応をすると思いますか。それはどうしてですか。	・孝吉の気持ちを考えながら範読を聞かせる。 ・自分だったらどうするかを考えさせる時に教材内容に左右されないために，教材を分割提示する。 ・孝吉が母を心配する気持ちに共感させる。 ・母を心配する気持ちから高麗人参を持ち出してしまったこと（人間の弱さ）に気付かせる。 孝吉の行動に対して，自分だったらどのような対応を取るかを自分との関わりで考えさせる。（自）

		・怒る。 ・弟子として認めない。 ・許さない。 ・許す。 ・話を聞いて判断する。 ●何に対して怒る（許さない）のですか。 ●どんな話を聞くのですか。	ペアや全体での話合いを通して人それぞれ感じ方や考え方が違うことに触れさせる。（多） ・補助発問を通して，自分が取るであろう対応の根拠を明らかにしていく。
	5　教材後半部分（P90～P91）の範読を聞き、順庵の対応の裏にある心情について考える。 （個人→一斉）	◎順庵はどうして母の元に行くことを許したのでしょう。 ・孝吉の気持ちが分かったから。 ・孝吉の母に対する思いが分かったから。 ・孝吉が悩んでいたことに気付けなかった自分を反省したから。 ・孝吉が反省していることに気付いたから。 ・医者として病気の人を治してあげたいと思ったから。 ●高麗人参を持ち出したことを許したのですか。 ●許してもらった孝吉はどういう気持ちになるでしょう。 ●順庵が大切にしているのはどういうことだと思いますか。 ●あなたは，順庵の思いが分かりますか。	・「広い心」とはどのようなことか，順庵の取った対応に着目して範読を聞かせる。 順庵の取った対応から「広い心」について考えさせる。その際に，ウェビングマップを活用し，多面的・多角的に考えさせる。（多） ・順庵は高麗人参を持ち出したことを許しているのではないことを押さえて，孝吉が母を心配に思う気持ち，弟子の悩みに気付けなかった自分を反省する気持ちに気付かせる。 ・全体での交流の際，友達の考えで共感できるものは青ペンで加筆することで，自分の考えを深められるようにする。 ＜評価＞ 順庵が孝吉を母の元へ行くことを許した理由やその思いを考え，「広い心」を持つ良さを感じようとしていたか。 （多）【ワークシート・観察・発言】

展開後段 ５分	6　順庵の対応から「広い心」を持つとは，どのようなことか考える。　（一斉） 7　自分との関わりで「広い心」について考える。(一斉)	○順庵の持つ「広い心」とはどのようなことでしょう。 ・すぐに決めつけないで，相手の話をよく聞くこと。 ・相手の気持ちを考えて行動できること。 ・すぐ怒らないでよく考えること。 ○みんなの生活を振り返って許してもらえて良かったことや許してあげたことはありますか。 ・けんかをした時 ・物を壊した時 ・約束を破った時	 ・教材を通して考えた「広い心」を自分の生活と照らし合わせて相手を理解することの大切さについて考えさせる。
終 末 10分	8　自己の生き方について考える。　（個人）	○「広い心」を持つことについて，今日の授業を通して感じたことや考えたことを書きましょう。 ・はじめは広い心を持つとは，すぐに怒らないことだと思っていたけど，授業を通してすぐ怒らずに相手の話を良く聞くことだと思った。 ・相手のことを考えることも大切だと思うけど，今日の授業で自分にも何か悪いところがないか考えるということも大切なのだと感じました。 ・どうしてそうしてしまったか考えることが大切で，それを理解してあげれば，その人のためにもなると思いました。 ・失敗することは誰にでもあるので，相手のことも理解して答えを出そうと思います。	・自己の考えの変化や深まりに気付かせるために，導入の問題に触れ，導入時の自分の考えと比較する視点を与える。 「広い心」を持つとはどのようなことか考えを書かせることで，自分の生活を振り返り，自己の生き方について考えを深めさせる。（自）（生） ＜評価＞ 広い心について自分との関わりで考え，自己の生き方について考えを深めていたか。 （自）（生）【ワークシート・発言・板書】

（問）：問題意識を持たせる　　（多）：多面的・多角的に考えさせる
（自）：自分との関わりで考えさせる　　（生）：自己の生き方について考えさせる

【評価】

＜児童の評価＞

・ペア学習や話合い活動を通して，順庵が孝吉を母の元へ行かせることを許した理由やその思いを考え，「広い心」を持つ良さを感じようとしていたか。　　（自）（多）【ワークシート・観察・発言】

・広い心について自分との関わりで考え，自己の生き方について考えを深めていたか。

（自）（生）【ワークシート・発言・板書】

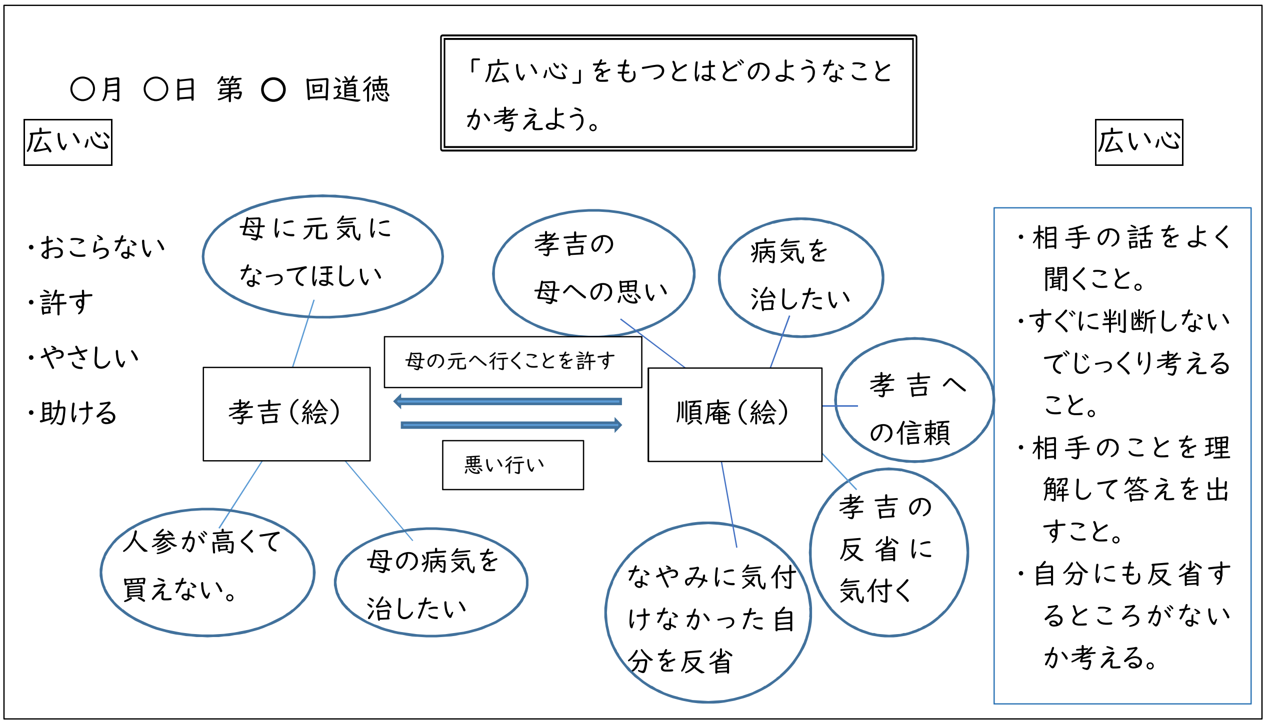
＜教師側の授業評価＞

・高麗人参を持ち出してしまった孝吉に対して，自分だったらどうするか考えさせることで自分との関わりで考えさせていたか。　　（自）【ワークシート・観察・発言】

・終末場面の書く活動を通して，自分の心と照らし合わせながら「広い心」について自分との関わりで考え，自己の生き方について考えを深めさせていたか。

（自）（生）【ワークシート・発言・板書】

【板書】



【準備物】

教師：教科書，ワークシート，挿絵

児童：教科書，筆記用具

（別紙）６　他の教育活動との関連

小学校４年　道徳
【わかり合う心】
「合い言葉は『話せば分かる！』」
・相手からの理解が得られるように思いを伝えること。
・異なる意見を大切にすることのよさを実感すること。

↓

他の教育活動
・学級活動
・係活動
・当番活動
・縦割り活動
・総合的な学習の時間

→

小学校５年　道徳
【広い心で】
「名医，順庵」
・相手の過ちなどに対しても，謙虚な心，広い心で受け止めようとすること。

→

他の教育活動
・学級活動
・係活動
・当番活動
・縦割り活動
・総合的な学習の時間

↓

小学校６年　道徳
【みとめ合う心】
「銀のしょく台」
・広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。